

# 実作者が語る、ドキュメンタリー映画とは？

## 青山真治

### PROFILE

1964年福岡県生まれ。96年に『Helpless』で劇場デビュー。00年、『EUREKA ユリイカ』が第53回カンヌ国際映画祭において国際批評家連盟賞とエキュメニク賞をW受賞し、一躍国際舞台にその名を轟かせた。その後自ら小説化した『ユリイカ EUREKA』で三島由紀夫賞を受賞し、小説家としても評価は高い。ほかの監督作品に『レイクサイド マーダーケース』(04)、『エリ・エリ・レマ・サバクタニ』(05)などがある。



1978年、脳出血により32歳の若さで早世した間章。フリージャズ、プログレッシブロックなどの音楽を積極的に日本に紹介し、ミュージシャンたちと協働して新しい地平に挑戦していたこの音楽批評家の軌跡と彼が生きた時代を、周辺の人物12人の証言によって描き出したドキュメンタリー作品が、本作『AA』である。

「自分が映画を作ることになった経緯の中に音楽というのがある、その音楽に対する批評の部分で影響を受けた存在が間章だったんです。幸いにもセミ生たちも興味を持ってくれて、いろいろと進めていくうちに、いつしか話が大きくなって結局7時間半という巨大な作品になってしまいました(笑)」

登場人物のひとりである灰野敏二氏の即興演奏に引き込まれるようにして始まるこの作品では、カメラはほぼ固定され、各人の語る姿は静的に映されているだけである。その構えはいかにドキュメンタリーだが、青山自身は作り方においてフィクションとの差異はほとんどないと話す。

「フィクションであっても目の前で起こっていることを撮影するという意味ではドキュメンタリーであり、逆にドキュメンタリーであっても語られたことがすべて真実かといったら、それはわからない。ならば、フィクションとドキュメンタリーに差はほとんどありませんよ。そもそもドキュメンタリーが真実を客観的に伝えるものだという思い込みがまったくの誤解。ドキュメンタリーほど作り手のエゴが如実に表れるものはありません。なにを撮ってなにを撮らないのか、すべては作り手の取捨選択の上に成り立っているわけですから。そう考えると、ドキュメンタリーというものが、これは本当のことですよ、と言いがらやっている大抵のことが嘘にしか思えない。あたかも本当のことを知った気になって楽しむことは、フィクションの作品を観るのと変わらないと思います」

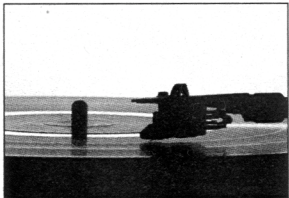
優れたドキュメンタリーはある意図をもって現実を再構成している点です。フィクションにならざるを得ない。一方、優れたフィクションには必ず寓意があり、それはすべからず現実と照応している。だとするならば、真実を見いだすためのアプローチの仕方が異なるだけで、そこに境はないのだ。

「ただ、ドキュメンタリーのほうがより作り手の想いをストレートに反映させやすいことはいえるかもしれない。映画にかぎらずテレビでも同じことだ。映像作品というものは常に一方向的なもので、なかでもドキュメンタリーはそれが強い。である以上、その一方向性をどれくらい強烈にアピールできるかが、ドキュメンタリーの面白味なのではないかと思えます」

本作はまさにその試みが買われている。質問を意図的に省略し、不在の人物をめぐる12人のミュージシャンや批評家のインタビュのみで構成され、そのポリフォニックな語りによって間章という人間を、ジャズやロックという音楽を、さらには70年代カルチャーの意味をみごとに浮かび上がらせているのだ。

「間章のドキュメンタリーを作ったことになっていきますけど、この作品を観てむしろわかるのはその周辺にまつわる出来事はかなりで、もしかしたら彼自身についてはなにもわからないかもしれない。でも、それでいいんです。間章というひとつのドアを通してなにかをつかんでもらえればうれいなんです」

7時間半という時間は言葉にするとたしかに長いですが、そこで語られる話題に好奇心は刺激され、気づけばどっぷりと浸かっている。このロングセットの知的興奮は一見の価値ありである。



1978年に32歳でこの世を去った音楽批評家、間章。ジャズ、批評、そして彼が駆けぬけた70年代とは果たしてなんだったのか——12人の語り部たちによる、不在の人物をめぐる7時間23分の旅。

**【AA】**  
監督：青山真治  
出演：大友良英、亀田幸典、近藤等則、佐々木 敦、清水俊彦、副島輝人、高橋 聡、竹田賢一、灰野敏二、平井 玄、本間 亮、潮浅 学

●上映日程  
・12月12日～12月21日(12月17日休映)  
会場：アテネ・フランセ文化センター  
・12月17日(日)のみ  
会場：映画美学校第一試写室(電話予約制)  
☎03-5205-3565 定員80名

●上映スケジュール[2会場共通/入替制]  
・13:00～ 第1部(第一章～第三章)  
・17:20～ 第2部(第四章～第六章)  
※第1部と第2部を別の日に鑑賞することも可。

### 話題の新作ドキュメンタリー6本